政治しずおか

脱炭素へ静岡市と4社連携

生コン廃棄物 再利用

炭酸カルシウム生成しCO2吸収

静岡市と化学製品メーカーなど市内外の企業4社は31日、脱炭素社会の実現に向け、大気中の二酸化炭素（CO_2）を直接回収する技術「DAC（ダック＝ダイレクト・エア・キャプチャー）」に関する連携協定を締結した。生コンクリート工場で発生する産業廃棄物「生コンスラッジ」から炭酸カルシウムを生成し、多種多様な製品の材料として活用し、3年以内の事業化を目指す。

市と協定を締結したのは化学製品メーカーのタケ・サイト（同市駿河区）や、大林組（東京都）、鈴与商事（静岡市葵区）、三菱商事建材（東京都）。

炭酸カルシウムは生コンスラッジを粉砕して水などと混ぜることで生成され、その過程で大気中のCO_2を吸収する。多様な製品の材料に使うことで、排出量を上回るCO_2を削減する「カーボンネガティブ」につなげる。大林組は現在、この炭酸カルシウムを用いたコンクリートの開発に取り組んでいる。

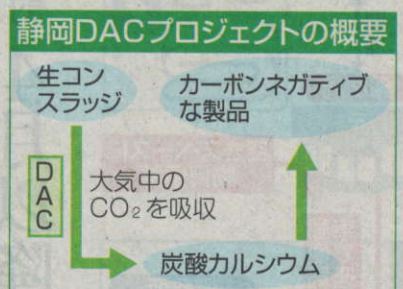
市によると、生コンスラッジは国内で年間約160万トンが発生しているが、ほとんどが埋め立て処分されていて、産業廃棄物の再利用化にも役立つという。

「静岡DACプロジェクト」と銘打った今回の事業では、生コンスラッジ由来の炭酸カルシウムの生産をタケ・サイト、炭酸カルシウムを材料としたコンクリートの開発を大林組、製品や炭酸カルシウムの販路拡大を鈴与商事や三菱商事建材が担う。静岡市はグリーン産業推進の一環として4社の取り組みを支援する。

市役所静岡庁舎での締結式では、各社の代表者らが協定書に署名した。事業を主導するタケ・サイトの武田雅成社長は「スピード感が大切。5年以内にDACのプラントを建設したい」と意気込んだ。田辺信宏市長は「実行体制構築の下支えをしていきたい」と話した。

（政治部・池谷遥子）

静岡DACプロジェクトの概要



DACに関する連携協定を締結した5者の代表者
＝31日午後、静岡市役所静岡庁舎

低炭素型コンクリ材料

産廃活用し開発めざす

静岡市、4社と連携協定

静岡市は31日、サーキュラーエコノミー（循環型経済）に向けたビジネスモデル構築をテーマに化学製品製造販売のタケ・サイト（静岡市）、大林組など4社と連携協定を結んだ。生コンクリート工場で発生する産業廃棄物「生コンスラッジ」を用いて、大気中の二酸化炭素（CO_2）を吸収・固定する微粉末を生産し、低炭素型コンクリート材料などの開発を目指す。3年以内の事業化を目標にする。

「静岡DACプロジェクト」と名付け、基幹技術を持つタケ・サイトを中心に実証プラントの整備などを進める。協定には鈴与商事や三菱商事建材（東京・豊島）も加わった。大林組は新たなコンクリートの開発、鈴与商事と三菱商事建材は製品販売などを担う。